

## 京北病院の遠隔医療の状況について

## 1 現在運用している遠隔医療

## (1) 遠隔画像診断（平成24年10月）

京北病院で撮影したCT画像データを市立病院に送信し、市立病院の放射線診断科専門医が読影や相談を行う体制ができ、迅速で精細な画像診断が可能となった。

※ 京都府情報基盤（京都デジタル疎水ネットワーク回線）を利用。

## (2) 2病院共通電子カルテ（平成27年8月）

市立病院と共通の総合情報システム（電子カルテ）を導入し、患者情報を共有することで、医師等の応援の際にスムーズに診療を行うことができるなど、両病院の連携が一層進んだ。

※ 京都府情報基盤（京都デジタル疎水ネットワーク回線）を利用。

## (3) 訪問看護スマートデバイス（タブレット）システム（令和6年7月）

訪問看護師が一度の外出で複数患家を訪問し、バイタル（体温、脈拍、血圧、呼吸）測定結果、聞き取り内容等を紙面に記載し、褥瘡等の身体的所見があれば、主治医に報告するためデジカメで撮影し、病院へ戻ってから紙面に記録していた情報を訪問看護支援システムへ入力、写真データを手作業で移す等、記録業務に多くの時間を費やしている状況があった。

そこで、タブレットを導入し、訪問先で入力することで、訪問看護支援システムサーバー（京北病院訪問看護ステーションに設置）へ保管されるようになり、事務的作業の手間が軽減された。

※ ポケットWi-Fi（通信キャリア）を利用。

## (4) 体内植込式心臓ペースメーカーの遠隔モニタリングシステム（オンライン機能を有するペースメーカーのみ）

ペースメーカーなどの植え込み型デバイスを使用している患者様のご自宅に専用の中継機器を設置し、自宅から植え込み型デバイスの情報を専用のサーバへ送信し、医療機関から情報を閲覧できるシステムで、患者様は病院を受診すること無く、自宅にしながら医療機関へ植え込み型デバイスの情報を提供することが可能となっている。

また、アラート送信機能も兼ね備えており、植え込み型デバイスに不具合や故障が発生した場合には、医療機関へ自動的にデータを送信するので、異常等を病院側で早期発見することも可能である。

※ 専用の中継機器（通信キャリア）を利用。

※ 専用サーバの閲覧は、市立病院勤務の臨床工学技士等専門スタッフが担っている。